

9番（山口 一成君） 山口でございます。3点ほど、質問通告してあります。パネルを3番目に使わせていただきたいということを議長に要望いたしまして、許可を得ましたので、3番目ではパネルを使わせていただきたいと、こう思っております。

皆さん方が各議員さんすべて、東日本大震災のことであるとか、先日の台風12号の話がたくさん出ましたですけれども、私の友達が仙台におったり、紀伊長島におったり、熊野におったり、御浜町におったり、紀宝町にもおりますので、電話でほとんど連絡をとっておりますが、いまだに紀宝町とは電話がつながりません。携帯電話はつながります。そういうような状況の中で、被災された皆さん、避難されてみえる皆さん方に本当にお見舞いを申し上げ、そのことを議会の中でも出していきたいなと思っております。

それから特に私が今議会で感じておることがあります。そのことは、町長の6月議会での態度と今9月議会での態度が一遍に変わったということ、議長も含めて、皆さん方わかってみえると思いますけれども、その点が大変いい雰囲気になっておるなということ、私は率直に昨日から答弁を聞いておりまして、感じておる次第でございます。

1点目の環境調査のことについて、最初に申し上げます。

昨年度の調査や、すべての調査をずっと見てきました。先日、この広報とういん9月号でも1番の問題は出されております。けれどもこの1番のダイオキシンや大気や水質の調査については、私は今日、平成17年度と去年と今年のもの3つ持ってきました。けれどもほとんど内容が同じであるということです。それと同時に、内容以外に一番大事なことは、何月何日に調査したかということが、一回も平成14年から書いてないわけなんです。文章もほとんど毎回同じです。そのことに私はどのような仕事してみえるのかなということを感じいたしましたので、なぜこのように同じであるかということについての1回目の質問を、生活福祉部長にお願いするわけでございます。

2番目につきましては、昨年度も騒音調査のことについて質問いたしました。けれどもその騒音調査については、年1回、回答でございますが、桑名、いなべと協力して調査をするような話し合いを一遍持ちたいということで終わっております。

それから3番目についてですが、放射能測定機の購入をしたかということについてでございますが、先日、課長補佐にお聞きしたら、まだ購入していないということでした。けれどもこの間、水源池4カ所を調査したと。それでセシウムは無検出であったということがありましたので、購入されたのかなというふうに思いました。そういうようなことで、1点目の質問を皆さん方に聞きたいと思えます。

生活福祉部長に、まとめてご答弁をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 岩田生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 山口議員の、町の環境調査についてのご質問にお答えいたします。

町民の皆様安心して生活していただけるよう、町では水質、大気の調査のほか、ダイオキシン類について、水、大気及び土壌の調査を毎年実施しております。

昨年度の調査結果は毎月2日発行の「広報とういん」に掲載し、町民の皆様にお知らせしたところでございます。結果はいずれも環境基準値を下回り、おおむね良好でございます。

さて、環境調査において重要なことは、観測地点と実施時期を固定して定点観測を行い、測定値の経年変化をとらえることでございます。

現在の観測地点と実施時期は、本町における自然条件や生活環境のありようを考慮して設定されたものでございますが、そもそも環境基準とは、環境基本法第16条において「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と規定されております。

次に、町内の騒音調査の進捗状況でございますが、今年度も昨年度と同じように経年変化を調べるため、同じ観測地点と実施時期を固定し、実施時期につきましては、天候や湿度の条件から冬場が適当なことから2月としており、来年の2月には実施する予定をしております。

次に放射能測定機の購入でございますが、東日本大震災における原子力発電所の事故により、放射性物質の拡散に対する不安が現実のものとなり、6月議会で予算承認をしていただき、その後、直ちに発注したところではございますが、現在、部品不足にて生産が追いつかず、供給がままならない状態で、まだ納入はされておられません。

部品が整い次第、速やかに納入するよう強く要請をいたしているところでございます。納入後は有効活用を図りたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 今、期日については冬場の2月ということをお聞きしました。けれどもこれが今年のもので、これが去年のもので、これが平成17年のもので（山口議員 資料を示す）。この平成17年のもので平成16年度のもので平成17年度に出すという、1年遅れでございます。

年度から言えば平成16年度と平成17年の9月に出したということについてはわかりますけれども、その中で言葉が平成17年と、すべて今年の部分も全部同じなんです。平成17年度はこのように書いてあるのです。

一番大事なことは、水質のことですけれども、比較的大腸菌類の値が高い傾向が見られましたということです。またダイオキシンについても、このように書いてあ

ります。生活環境は日々変化しています。皆さん一人ひとりが生活環境をいま一度見詰め直し、より一層良好な生活環境を確保できるよう取り組みましょうと。この文句は3冊とも同じなんですよ。このことは惰性に流れた記録がなされておるのではないかと思いますので、総務部長、そのことについて答弁してください。

議長（山本 陽一郎君） 日置総務部長。

総務部長（日置 直人君） 急に振られましたので戸惑っておるんですけど、やはり広報の内容については、先ほど議員申されましたように、年々によりまして、当然環境の実態と違うと思いますので、文面が同じというご指摘については、また庁内のほうで十分精査をするように指導させていただきますので、どうかご理解よろしくお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 総務部長という役職は、職員を束ねていく大本でございますので、総務部長にお願いしたわけでございますが、これはやはり変えていただきたいなというふうに思います。

次に今、生活福祉部長から答弁がございましたが、平均値は出されております。定点調査も、私はこれは大切だと思いますので、定点調査は大変いいと思いますが、定点調査が毎年同じであるけれども、当局で変えることができないかということについて、再度答弁をお願いしたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） お答えさせていただきます。

騒音調査につきまして、例をとりますと、環境省のほうから騒音にかかる環境基準の評価マニュアルがございまして、それに定めてある方法によって、測定方法とか測定時間帯、測定時期を定めて実施しておりまして、測定地点の測定につきましては、特定の音源の局所的な影響を受けず、地域における平均的な騒音レベルを評価できると考えられる地点を設定してございます。

また、設定された測定地点におきましては、継続的に測定を行うことが望ましいとされておりますので、場所を変えずに、定点測量でずっと経年変化を見守っておるような状況でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 私は騒音測定のことを質問したわけではないわけです。水質とか大気とかダイオキシンについて、質問したわけでございますが、特に中上の今、町長が住まわれてみえます地点ですね、田辺、川原、A B Cの中上のダイオキシン調査の場所を川原や田辺に変更することができないか。または、もう1点、川原か田辺に調査地点を設けることができないかということの質問であります。いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 現在、水質調査につきましては9河川、16カ所で実施しておりまして、ほとんど東員町全体的に標準的な場所を選定して観測してございまして、現在のところ、それを増やしたりとか、場所を変更しますと、また経年変化をとらえられなくなるということで、現在のところ考えてございません。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 水質ではなくて、私はダイオキシンのことについて質問したわけです。なぜならば町長もご存じだと思いますが、6月、7月ごろ、川原であるとか、田辺であるとか、朝起きたら大変臭いという苦情が寄せられておるわけなんです。私は亡くなられた議員がおみえでしたので、今まで質問しませんでした。けれども聞いておりますので、このことについてはどうかということですが、町長、朝起きた時の空気を吸っていただいておりますので、その点いかがでしょうか。

議長（山本 陽一郎君） 町長。

町長（水谷 俊郎君） 大変ご配慮いただきまして、ありがとうございます。

私、言われます川原に住んでおりますけれども、朝起きて余り感じたことがないんです。ただ、新しくできました長深へ行く町道ですね、夜、時々ですけど散歩をするんですが、その時に2回ぐらいですかね、異臭を感じたことがありました。家内と一緒に散歩をしている時に、それはございましたけど、朝起きて私が住んでいるところで異臭がするという事は、ちょっと今のところ感じたことはございません。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 町長の隣近所でそういうことを聞いておりますので、質問したわけですが、朝早く起きていただいておりますのかなというようなことを私は今感じました。

次に水質のことについて、部長にお願いいたします。

南大社の水質調査は、調査委員が毎月1回、役場の当局と南大社の選定の調査委員と神戸製鋼の調査委員、3人立ち会いのもとで調査をしておるということを私は聞いておりますが、そのことについて、部長の答弁をお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 現在、神戸製鋼と地元との調査の結果の話し合いというのは年2回行っておりまして、それについて現在のところ、必要なデータというか、そういうものは出ておりません。良好な値で報告されております。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） もう1点、水質のことですが、六把野井水がほとんどA D E K Aの南を通っております。北山田を通って、ピアゴのところ

からマンボを通過して弁天川のほうへ流れております。子どもたちはピアゴの北で曲がる時には、そこで魚がたくさん今でもおります、その魚を釣っております。けれども子どもは釣っても食べません、こう言っておるわけですが、このことについても調査地点に入っておりませんので、その地点を何か動かすことができないのかということ、再度部長に質問いたします。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） お答えさせていただきます。

A D E K Aの工場廃水につきましては、A D E K Aのほうから廃水についての水質調査の結果をいただいております、それについては異常は認められておりません。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 調査の記録の大切さということは、いつ、どこで、どれだけのこと調査されたのかということが、これが一番大事なんですよ。

一例を申しますと、今日もここへ持ってきたんですけども、朝日新聞の3月12日に、死者110人、行方不明350人、負傷者544人と朝刊で出ておりました。夕刊になったら、死者・行方不明者1,500人、放射能放出で4万人避難と、こう書いてあるわけです。今朝の朝日新聞では、死亡1万5,774人、行方不明4,227人と、こう書いてあるわけです。このように記録をとることはいかに大切かということ、肝に銘じていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

1つ聞きたいのですが、三重県環境保全事業団というものはどういうものであるかを、部長にお尋ねいたします。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 県の環境保全事業団につきましては、一民間事業者でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 今年度の予算で、この事業団に払う金が863万1,000円計上されておるわけなんです。863万1,000円を環境保全事業団に払っておるわけなんですから、863万1,000円が2月に、何日間、何人で調査をされたのか。役場の職員はついていったのか。そういうようなことを、ここの質問では最後にいたしますが、ご答弁をお願いしたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 今現在、資料を持ち合わせてございませんので、また後刻報告させていただきます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 第1点目はこれで終わりたいと思います。

2点目についてでございますけれども、2点目については町長にお伺いします。

6月議会でもお願いしましたが、新交通システムについてでございます。このことはこの前もお示しいたしましたように、このようなチラシが在来地区には入っておりません（山口議員 チラシを提示）。この前の答弁とどうかということも含め、ほかの議員も既に質問をされてみえますので、再度ご答弁をお願いしたいと思います。それは進捗状況でございます。

よろしく申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 山口議員の新交通システムについてのご質問に、お答えをさせていただきます。

町のオレンジバスは、平成17年度から平成21年度までの5年間の実証運行を経て、平成22年度から南北線と東部線で本格運行をしております。

このバスは、運行管理体制、車両管理体制、損害補償体制など、さまざまな項目をクリアし、運行ルートや運賃料金などにおいても地域公共交通会議を設置し、この会議で承認を得て、バス利用者から運賃を徴収する一般乗合旅客自動車運送事業として、道路運送法第4条の許可を得て運行をいたしております。

このように、公共交通事業を行うには、道路運送法上の課題も解決していく必要がございます。

現行のオレンジバスは定時定路線で町民の皆様にご利用をいただいておりますが、このシステムでは利用していただくことが困難な方が多くみえることも事実でございます。現行のバス利用状況や利用実態の把握調査、他地域でのコミュニティバスやデマンドタクシーなど、公共交通事業の実例調査、また、三重県政策部交通政策室からもさまざまな情報収集を行い、より便利な新しい地域交通システムの実現に向けて、現在取り組んでおる次第でございます。

進捗状況ということでございますが、今申し上げましたように、法律の壁もこれあり、またシステム上の課題もありということで、申しわけございませんが、なかなか進展をしていかない。非常に私としてもはがゆい思いをしております。できるだけ早く検討をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくご理解を賜りますよう、お願いを申し上げたいと思ひますし、またご支援を賜りますれば幸いに存じます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 6月議会から言うと、ちょっとトーンダウンしたような気が私はしてなりません。ということは、広報にも書きましたように、このコミュニティバスのことについては、今の路線は残していただいてもよしと、けども玄関から玄関までというようなところへ行くような小さなタクシーが素敵と思ひませんかというような公約でございますので、その6,000万円を使った金額で何

とかしようということで、委員についても、14名のうち、わずか3名しか民間の方が入っていないという話もさせていただきました。町長の公約では、2年間でということがあります。わずかまだ3カ月ぐらいでございますので、そのことは無理かと思えますけども、住民の声は大変強いことでございますので、再度質問させていただきます。

3点目に移らせていただきます。

3点目は、原発被爆から子どもを守るということでございます。1、2、3、4と挙げさせていただきました。

1については、神田小学校と福島との交流が現在なされております。手紙であるとか、また向こうからの返事であるとか、ボランティアに行かれた方々とか、先ほど川瀬議員も現地へ飛んだという話がありましたけれども、このことについて、毎月行かれた方に私は詳しく聞いてきました。大変涙ぐましいというか、本当にやってみえるなということを感じました。

その中で子どもが出した1つの作文を読みます。

東北の山元町の皆さん、こんにちは。三重からメッセージを送ります。あの3月の大震災からもう3カ月もたちますね。これほどの月日がたったとは、とても思いません。皆さんの体調はいかがですか。食事が心配です。けれどもそれより心配なのは、いつ皆さんがもとの生活に戻れるのかです。そのために僕も募金、節電に協力をしています。皆さんが一日も早く幸せになれるように頑張っております。お身体にお気をつけてください。さようなら。

もう1点ありますが、時間の関係で読みません。

次に、向こうから来た返事でございます。

神田小学校の皆さんへ。神田小学校の皆さん、こんにちは。このたびは皆様からの応援メッセージ、炊き出し等、心より感謝しております。さて、東日本大震災より3カ月がたち、私たちの生活は少し落ちつきを取り戻しました。とはいえ、私個人としてはまだ仮設住宅に入居できず、避難所での生活が続いております。私には5月末に3歳を迎えた息子がおります。震災時、息子を保育所へ預け、仕事へ行っていた私は、震災直後すぐには迎えには行けず、だれとも連絡がとれない状況でした。息子の安否さえ確認できずに長い夜を迎えました。次の日、自衛隊に保護され、再会することができました。おかげさまで家族全員の無事を確認することができ、今ではみんなで力を合わせ、日々の生活を避難所で送っております。こんな小さな町にも支援してくださる神田小学校の皆様にも、小さな幸せが届くよう祈っております。お手紙本当にうれしかったです。ありがとうございましたと、このようなお手紙をやりとりしておるわけでございます。

この行かれた方は、被災地の泥かきや何かの時に、そこのうちの子どもから、「おじさん、マスクしてね」、「おじさん、汗が出たらこのタオルでふいてね」と、そ

のような言葉がけもしてもらったと、大変何か涙ぐましい、子どもたちの生活の実態を目の当たりにすることができたということを最初に申しておみえでございました。

話し合おうという歌を現地へ送り、地元のFMのりんごラジオで、それが放送されておるわけでございます。私も行って、こうですよというチラシをもらってきました。これがそうでございます（山口議員 チラシを提示）。被災地にメッセージを届けましたということで書かれております。

その中で教育長に質問いたします。

ここにパネルを持ってきました（山口議員 パネルを示す）。これは抽出された100人の子どもに対して甲状腺被爆のこと、転校生のこと、死亡・行方不明の子ども、孤児の子ども、被災した学校の数、そういうようなものの数字を私は書き上げました。特に下に書きましたように、学校再建のことであるとか、給食のことであるとか、校庭でなかなか遊べないとか、たくさんあります。もちろん、高校生は通学不可能で二重生活をしておるとかというようなことの中で、先生を増やしたらどうかとか、教職員のケアをどうしたらいいとか、または被爆の限度、年間20ミリシーベルトをもう少し撤回したらどうか、もうちょっと厳しくしたらどうかというようなことも私は思っておりますけれども、教育長、この表を見てどのようにお考えになったかを、お尋ねしたいと思います。よろしくお願いします。

福島の子童生徒の現状を今申しましたが、次に、原発銀座若狭ということでございますが、このようなパネルをつくってきました（山口議員 パネルを示す）。全国で一番最初にできたのが美浜原発でございます。約5,000億円だそうでございます。その中で14基、ここにはあるわけでございますが、「」が打ってあるのは、今運転中のものです。「」は今運転していない、または点検中のもの、「」はもう1回つくろうかという場所でございますけれども、若狭の原発から考えますと、ここは80～90キロ圏内に入っております。

東北の福島のことも考えますけれども、特に若狭から考えてみたときに、伊吹山や鈴鹿を越えてくる、よく言う放射能は、このような円形では汚染されていきません。このことは皆さんご存じだと思います。偏西風が吹いたときには東員町にも完全にやってくると思いますし、琵琶湖を水がめにしておる神戸や大阪や京都の人たちはどうかなということも思ひまして、お尋ねをするわけでございます。

次に原発事故の教訓は何かということは、まとめでございますので、このことについて教育長に、もしも原発事故の教訓が何であるかということが今わかりでありましたら、お答え願いたいと思います。

よろしく願ひいたします。

議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。



町長（水谷 俊郎君） 山口議員の原発についてのご質問にお答えをさせていただきます。

子どもたちとの関係は教育長からお答えをさせていただきますので、私といたしましては、原発についての私の考え方を述べさせていただきますと思います。

議員もご承知のように、原子力発電というのは、核分裂によって生じたエネルギーを利用して発電するシステムでございます。

この核エネルギーの利用につきましては、第二次世界大戦時、広島や長崎で大きな被害を出した核爆弾から出た放射能の影響による後遺症が、今になってもいえない方がまだまだたくさんお見えになるということを考えますと、平和利用とはいえ、私たちは利便性を享受する、これと同時に大きなリスクも背負っているということになります。

恐らく今回のように、東日本大震災の津波により、福島原発の施設が大きなダメージを受け、漏れ出した放射能汚染の影響が周辺地域に広く拡散していく、こういうことは想定外だったと思います。しかし、これが現実だと思います。

地球というのは太陽系でございます。私たちは太陽の恵みをいただいて生活をしております。太陽は核融合によって成り立っており、何回も申し上げますけれども、私たちはその中で生かされているというふうに思っております。いくら平和利用とはいえ、核分裂によるエネルギーの利用は、この太陽の摂理に反した行為と言わざるを得ません。大きな観点で見ますと、必ず不都合が生じてくると考えております。今回のこともその一つではないかというふうに思っております。

私は、一刻も早く核分裂による原子力利用には終止符を打つべきだと考えております。しかし、我が国の電力事情を考えますと、いまだに原子力依存が3割に達しております。今すぐ原発を停止するという事は、非常に難しい問題ではないかというふうに、これも考えております。20年くらいかけて徐々に原発依存から脱却して、地熱や地震エネルギーの利用、あるいは蓄電の技術、そういうものを磨いていく、これを国策でやっていくということによって、日本のエネルギー確保を目指していくべきではないかというふうに考えております。

よろしく願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員の原発被害から子どもを守ることについての私へのご質問にお答えをいたします。

まず、神田小学校5年生・6年生による被災地への取り組みについて、議員もお話しをしていただいたとおりでございます。宮城県にボランティアとして参加された保護者の体験談を聞いた子どもたちが、被災者の方々にあてた応援メッセージと、自分たちの歌声を録音したテープを届け、その歌声が宮城県山元町の災害臨時FM「りんごラジオ」で流されたというものでございます。

子どもたちのメッセージや歌声にも、少しでも被災地の皆さんの力になればという願いが込められております。そして、その思いは確実に被災地に届いております。

先ほども読まれたように、そのメッセージ、多くの被災者の方から温かいお礼のお手紙をいただきました。逆に励まされたとも学校現場から聞いております。

こうした取り組みは、普段の教室では学ぶことができないことでもあり、きっと今後の一人ひとりの生き方にもつながっていくことと私は考えます。

生きた教材という言い方がふさわしいかどうかわかりませんが、学校現場では、その時にしかできない取り組み、こうした生きた教材を今後も大切にしていかなければならないと考えております。

次に、福島の子供生徒の現状についてでございますが、今回の東日本大震災と福島第一原発の事故は、はかり知れない被害をもたらす、日本全土を巻き込み、深刻な状況をもたらしていることは言うまでもありません。その中で、福島県内の学校教育や子供生徒を取り巻く状況も極めて深刻であります。

先ほど出された資料と重複するかわかりませんが、福島県教育委員会の「公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会」の資料によれば、5月1日現在で臨時休業中の小中学校は23校、学校機能を移転して再開した小中学校が47校。また、7月15日現在で県外に転出した小中学生は7,672名、県内での転校が4,575名、さらに、夏季休業中に県外へ転校を申し出ている小中学生は1,081名ということでございます。いずれも大変な数であると思っております。

また、たとえ学校が再開できたところでも、放射線の影響を受け、校舎外での活動が制限されるなど、原発事故は、子どもたちに限らず、被災地の方々を長期にわたって苦しめることになっております。

もちろん、福島県だけではなく、岩手県や宮城県を中心に、本当に多くの方々が被災をし、家を失い、家族を亡くし、震災から半年がたった今でも避難生活を強いられ、本当に辛く、苦しい生活を送っております。

元通りの生活に戻ることは大変難しいことかも知れませんが、一刻も早い復興と安心して生活できる状況が一日でも早く訪れることを、心から願うばかりであります。

次に原発についてでございますが、ご承知のとおり、国内の電力量の約30%が原子力発電によって賄われておりまして、現在、原子力による発電なしでは、国内では必要な電力を供給できない状況でございます。

中部電力の浜岡原子力発電所につきましては、東海地震の発生が想定される中、前首相の要請を受け、すべての原子炉が停止しておりますが、三重県に近い北陸地方にある多数の原子力発電所は、現在も稼働もしております。

原発の事故は、程度にもよりますが、チェルノブイリや今回の福島第一原発の事故レベルになりますと、被害ははかり知れないほど甚大であります。想定外とは言え、あってはならなかったことが実際に起こったことでありまして、二度とこのようなことを起こしてはならないと考えます。

今回の原発事故に関して、私は教育長ですので、教育の立場から私が所見を述べるとするならば、それは、子どもたちに全く責任がない中で、子どもたちが甚大な被害を受けていることに対して、大きな憤りを感じているということであります。

私たち大人は、子どもの未来に対して大きな責任があることを、もっともっと自覚をしていかなければならないと思っております。そして、日本人一人ひとりが、経済・産業・環境・教育等をトータルに考え、知恵を絞り、正しい判断をしていかなければならないと思っております。

今回の原発事故に関していえば「100%の安全はない」という意識を持ち、すべてのことに対応していかなければならないと改めて思いますし、これは一つの県、地方の問題ではなく、日本の国全体の問題と考え、国のエネルギー政策を注視していかなければならないと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口議員。

9番（山口 一成君）          町長、教育長から、私の理念、考え方とほとんど同じようなご答弁をいただきました。

けれどもこの間、朝日新聞の名古屋支局に電話しました。なぜ「ふげん」とか「もんじゅ」とかがひらがなでついたのですかということを知りました。そしたら私のところでは答えられないので、福井へ電話してくださいとして、電話番号を教えていただきました。そしたら福井の総局でも、私たち知りませんということで、日本原発機構の「ふげん」のところへ電話を私はしました。そしたら何と返ってきたことは、普賢菩薩からとったということでございます。もんじゅは文殊菩薩からとったということでございます。このように今までの水の冷却でする原子力ではなく、ナトリウムを使った循環するMOX、よく言うウラニウムというものを混合した燃料で運転するところだということをおっしゃいました。

そのようなことで、私はうちにある資料を持ってきたんですが、これがもんじゅの写真です、これがふげんの写真でございます（山口議員 写真を示す）。こんな資料を見ますと、何かまだまだ実験中であるというようなことが頭をよぎりました。六ヶ所村でもしかりでございます。

けれども原発に対しては5,000億円、もんじゅやふげんのMOXについては2兆2,000億円かかると言われております。そういう中で私たちの税金は使われ、このような大被害を受けたわけでございますので、内部告発もたくさんありますけれども、たくさんの方が原発事故で現場で亡くなってみえるということも含め

てでございますが、町長の親戚の方かもわからないし、同級生の方かもわかりませんが、田中光彦さん、東京工大を出てみえる方でございます。ご存じですか。その方は日立のものをつくったということで、1970年代、東海原発の説明をされ、それを設計され、つくられた技術者でございます。その方は、事故を起こさないためには、材料が年々劣化することを考えないとあかんと。古い原発こそ問題があり、整備された基準ですること、それから過去の原発を見直さなければならぬと、勇気ある告発をされてみえるわけでございます。

私たちは教育の現場で、機械に使われる人間にはなるな、機械を使う人間になれるということを、38年間の教員生活の中でそのことを強調してきました。機械に使われる人間になってはあかん、機械を使う人間にならないとあかんと、このことを最後に申し上げまして、私の質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。